

平成27年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属高等学校天王寺校舎

1 附属高等学校天王寺校舎の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎

(2) 所在地

大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

(3) 学級数・収容定員

12学級(1学年4学級) 収容定員504人(1学級42人)

(4) 幼児・児童・生徒数

493人 (男子247人・女子246人)

(5) 教職員数

校長(併任) 1人, 副校長 1人, 主幹教諭 1人, 指導教諭 0人, 教諭 32人(うち, 臨時的雇用12人, 育児休業4人, 再雇用職員1人), 非常勤講師 13人

事務職員 3人(専任1人, 事務補佐員2人), 臨時用務員(用務員) 2人, 臨時用務員(調理師) 0人

2 附属高等学校天王寺校舎の特徴

本校は、開校以来附属天王寺中学校とともに6年一貫教育の研究、実践を続けてきた。また、平成27年度SSH第2期の指定を受け、現在SSHの目的にそった教育研究を継続している。

生徒の自主性を重んじ、多様な経験と活発な議論を通じて、時代を問わず通用する生きる力と、自律的に責任を持って行動する力を育てることを目指している。

3 附属高等学校天王寺校舎の役割

- (1) 大阪教育大学と一体となって、教育の理論と実際に関する研究を行うこと。
- (2) 本学の教育実習機関として、実習生を随時受け入れ、適切な指導を行うこと。
- (3) 教育に関する理論を研究し、教育実践に役立てること。
- (4) 本学が行う現職教員の再教育の一端を担うこと。

4 附属高等学校天王寺校舎の学校教育目標

- 正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。
- 強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。
- 他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。
- 社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。

5 附属高等学校天王寺校舎の学校教育計画

1. 生徒の学力と、「生きる力」につながる人間としての力を育てる活動を、各教科・分掌で工夫し、実践する。特に、自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。
2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う。
3. SSHを軸とした研究活動を通して、カリキュラム全体としての充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導各分野での成果を発信する。

6 附属高等学校天王寺校舎の平成26年度 重点目標(評価項目), 具体的な取組内容(評価指標)・評価結果

評価の基準

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し, 真理を追究する旺盛な向学心をもち, 透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち, 頑健な心身を育て, 自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し, 自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための, 責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	1. 生徒の学力と, 「生きる力」につながる人間としての力を育てる活動を, 各教科・分掌で工夫し, 実践する。特に, 自治会やホームルーム等の集団における生徒の自主性と主体性に基づく諸活動を活用する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・授業を中心とした各教員の教科指導の質の向上	学年と生徒指導部の協力でホームルームでの議論を活発化させる。自主自律の基本のもと, 自治会行事を筋道だてて行うよう指導する。(生指)	職員会議等で情報発信し, 意識的な自治会指導ができた。過年度からの課題について継続して議論する土台ができた。	議論のための時間確保と教員の支援体制が重要となる。学年を超えた場面での議論も活性化させたい。	B	特になし	A	特になし
・自主性を伸ばし, 自律的な活動を進める力の育成	集団活動を取り入れる中で文章解釈や表現, 資料活用を意識した授業を行う。基礎的な知識をもとに, 適宜予習や調査等を課しながら, 論理的思考力や読解力・記述力の発展を図る授業を行う。(国語)	授業の中で班をつくり, 議論で深めた考えを小論文で表現するなど, 思考と表現のできる学習集団の構築に努めた。また基礎知識が生徒にとって「使える知識」につながるような実践を行った。	資料の探し方, 引用や参照の仕方などについては, まだまだ生徒の身につけていない部分があるので継続して指導する。読解力について評価方法も含め指導法を検討する。	B	特になし	A	特になし
	生徒の個性を生かし, 自律的な学習を進めるのに効果的な評価の構築を図る。(社会)	教育研究会を軸に, 言語活動を中心とした教育実践を行うことができた。	中高の連携による発達段階に応じた指導実践を進める。	B	特になし	B	特になし
	集団での学習活動におけるコミュニケーション力向上のための工夫に取り組む。(理科)	「授業等における評価の工夫」というテーマで全員が公開授業を行い小中高研究会で意見交換した。	公開授業の振り返りの時間を確保できるように, 教科会の案件を整理する。	B	特になし	A	特になし

	感動や想いを表現につなげる力を育成する。グループでの活動力を高める。(音楽)	生徒の表現力が伸びた。ドロップボックスを利用し、自宅やパートごとの練習に役立てた。	個人の意欲に依存する面が多いため、自主練習の大切さを意識させる。	B	特になし	A	特になし
	ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、生徒間の協働を促す。 音声面に意識を向けた反復練習を通して基本事項の定着を図る。(英語)	ペアワークを中心とし、必要に応じてグループワークを取り入れた授業を展開し、目標を達成した。 音声面に意識を向けさせながら文法語法事項も意識させた。	グループワークの方法をさらに工夫する。 定着度合いの個人差を縮める。	A	特になし	B	特になし
	授業研究期間を設定し、これを活用して授業力の向上を図る。(研究)	各教員がオフィスアワーを設け、授業力向上に取り組んだが、活用が不十分である。	オフィスアワーの活用方法を工夫する。	C	特になし	B	オフィスアワーの時間確保のための工夫をする。

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	2. 生徒の活動を支えるための、教育環境を整備・充実させるとともに、生徒の将来に向けた進路選択と実現に向けた取り組みを行う

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・ハード、ソフト両面での教育環境の整備と充実	進路選択に必要な情報を提供し、LHR、進路講演会、保護者集会等を用いて進路意識を高める。(進路)	必要な情報は様々な場面で伝えることができた。年間予定通りに行事も実施し、意識を高めることができた。	欠席した生徒にも確実に情報が届くことにさらに留意する。	B	特になし	A	特になし
・進路意識の向上に向けた取り組み	安全な学校生活に向けた基本の確認と、突発的な事象を想定した訓練を実施する。 美化意識を向上させ、清掃指導を徹底する。(健康人権)	不審者と地震火災の2回の訓練を計画したが、1回は雨天で中止した。 意識的に清掃指導することによる効果はあった。	雨天時の対応が計画されておらず、早急な対策が求められる。 7限授業の日の清掃を効率化する必要がある。	B	雨天時の対応ができていないのは論外である。	A	設定を変えた訓練パターンを考え、毎年同じでなくてよいので考えながら動く訓練をする。
	電子黒板と無線LAN環境を生かした教育方法開発への取り組みをサポートする。(庶務)	生徒貸出用のiPadすべてにAppleIDを登録し、使用環境の整備をした。	OSやアプリケーションの更新を怠らないように注意する。	A	特になし	A	特になし
	老朽化した施設の点検・補修を行い、安全性を保つ。(体育)	修繕、改修を少しずつ進めることができた。	引き続き安全点検を行い、環境の整備を図る。	B	特になし	A	特になし

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ●正義を愛し、真理を追究する旺盛な向学心をもち、透徹した判断力を養う。 ●強固な意志をもち、頑健な心身を育て、自主的・積極的な実践力を身につける。 ●他人を愛し、自然の恵みに心寄せる豊かな感性を育てる。 ●社会の一員となるための、責任感・遵法・奉仕・協調の精神を養う。
学校教育計画	3. SSHを軸とした研究活動を通して、カリキュラム全体としての充実を図り、教育研究・教育実習・生徒指導各分野での成果を発信する。

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・附属校として求められる研究テーマの設定と成果発信	SSHの学習活動や「総合」の指導方法、評価規準に関する研究を進める。(教務)	SSHでの評価に関する取組は進んだ。総合に関しては不十分である。	SSHでの学習と「総合」との連携が十分取れることを意識して研究を進める。	A	特になし	A	特になし
	教育研究会のテーマへの取り組みを通じて、あるいは教員同士の研修会の実施により、教員の指導方法や成果を共有する。(研究)	研究会の事前発表会を実施することで、各教科における評価の取組状況を共有することができた。教員の授業公開も実施できた。	教科の取組の共有方法をさらに工夫する。 授業公開のオフィスアワーを実質的に活用できるよう工夫する。	B	特になし	A	特になし
	授業収録システムを効果的に活用するため、適切な評価観点を設定し、教育実習の改善を図る。(理科)	小中高研究部会で、中高の取り組みについて議論し、野外実習では全員で生徒を指導した。	理科教員全員が関わる行事において、ノウハウや結果をまとめ発信できるようにする。	B	特になし	A	特になし
	教員の異動が激しい中で取り組むことが可能な研究課題を模索する。(体育)	個々の教員の研究に対するサポートはできた。	次回の教育研究会に向けて課題を模索する。	B	特になし	B	特になし